

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の理論と方法Ⅳ Social work theory and method Ⅳ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅲ、社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスのアワー	電話番号・メールアドレス	
中島 佳子	栄養棟3階	月～木の授業以外の時間	授業中に指示します	
授業の概要				
相談援助の対象とさまざまな実践モデルについて理解する。具体的には、相談援助における対象の理解、アプローチ、スーパービジョン、ケースカンファレンスなどを学習する。 そして上記を学ぶとともに相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 将来、相談援助の場面において、本講義で学んだことを活用し、利用者への確かな支援ができるような専門職の基礎レベルの定着を目指す。				
授業の到達目標				
①さまざまな実践モデルやアプローチの意義、活用について理解できるようにする。 ②スーパービジョンの意義と目的、方法について理解できるようにする。 ③ケースカンファレンスについて学習し、実践現場での活用を想定してその知識や技術を身につけることができるようになる。 ④2年間で学んだあらゆる知識・技術を活用し、自ら事例研究・事例分析に取り組むことができるようにする。				
授業の方法				
テキストと視聴覚教材、関連資料を使用した講義方式とする。 内容によってグループディスカッションや演習を取り入れる。また最終課題として、事例研究に取り組む。				
学習の成果				
①実践モデルやアプローチの方法を理解し、事例からそれらを概観することができる。 ②スーパービジョンの受け方、活用の仕方を理解することができる。 ③仮にケースカンファレンスを企画運営し、役割担う。また自分の意見を述べるすることができる。 ④経歴や文献検索から事例を見つけ、事例研究・事例分析を行うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の目標と進め方、成績評価についての説明、諸注意等）			
第2回目	さまざまな実践モデルとアプローチ①（実践モデルとその意味）			
第3回目	さまざまな実践モデルとアプローチ②（治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル）			
第4回目	さまざまな実践モデルとアプローチ③（ジェネリストソーシャルワークの展開と実践モデル）			
第5回目	さまざまな実践モデルとアプローチ④（心理社会的アプローチ、機能的アプローチ他）			
第6回目	さまざまな実践モデルとアプローチ⑤（エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ）			

第7回目	スーパービジョンとコンサルテーションの技術①（意義と目的）		
第8回目	スーパービジョンとコンサルテーションの技術②（展開過程とその実際、活用方法）		
第9回目	ケースカンファレンスの技術①（ケースカンファレンスの意義と目的）		
第10回目	ケースカンファレンスの技術②（ケースカンファレンスの運営と展開過程、その実際）		
第11回目	相談援助における個人情報の保護		
第12回目	相談援助における情報通信技術の活用		
第13回目	事例研究・事例分析①（事例研究の目的と意義）		
第14回目	事例研究・事例分析②（事例研究の方法と留意点）		
第15回目	まとめと試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	20%	講義への積極的参加、ディスカッション・演習への参加態度等を総合的に評価する。
	レポート	10%	以下の事柄で評価します。レポートの要領を厳守し、ディスカッションや演習のまとめを授業内で得た知識及び自分の考えを含め作成している。
	調査報告書		
	小テスト		
	中間・学期末試験	70%	○×形式、選択方式、記述式を用います。
	発表内容（態度含む）		
	その他		
教科書と参考図書			
教科書：授業内で指示する 参考資料：適宜配付する			
履修上の心得・ルール			
私語、携帯電話の使用を禁止します。			